

これからが指導者としてのスタート！

晴れてアドバンスト・インストラクターになった人たちの抱負

＝第5回B＆Gアドバンスト・インストラクター養成研修より＝

9月1日（月）から30日（火）まで、1カ月間にわたって行われた、第5回アドバンスト・インストラクター養成研修。今年は台風の影響で風が強い日が多く、ヨットの研修で苦労した人が多かったようですが、参加した26名はすべて無事に研修を終了。マリンスポーツ指導者のニューフェイスとして、期待を胸にそれぞれの職場へと戻って行きました。

ウェブマガジン・アンドリーでは、研修が終わりに近づいた9月26日に、参加者の代表4名にインタビュー。1カ月に及んだ研修生活を振り返りながら今後の抱負を語っていただきました。

インタビュー参加者 ※本文中・敬称略



有瀬由加里さん（21 歳）	平山史明さん（34 歳）	佐藤達也さん（27 歳）	米内聡さん（24 歳）
北海道三角町	北海道瀬棚町	新潟県中条町	青森県名川町

■普段、みなさんはどんな仕事をされているのですか？

（有瀬）役場の勤務は3年目で、現在は総務の仕事をしています。海洋センターの仕事は、いまのところしていませんので、今回の研修に行って来いと言われたときは驚きました。以前、この研修に参加したことのある役場の人から話を聞いたら楽しそうな感じを受けましたが、研修が近づくにつれて不安が増していきましたね。

（平山）海洋センターで働きはじめて5年目です。その前は、町の水産課にいました。役場に入る前からジェットスポーツを楽しんでいましたが、海洋センターに配属されてからは艇庫にあるウインドサーフィンを覚えなければならず、乗っているうちにジェットスポーツより面白くなってしまいました。自然の力を利用して走るところが楽しいですね。実は、私の町からこの研修に参加する

のは7年ぶりのことなんです。町長が初代のセンター所長だったこともあり、そう長くは休んでいられないとのことで復活しました。

（佐藤）昨年までは役場の住民課にいましたが、現在は海洋センターで働いています。連日、平均して120名ほどの利用者が訪れるので、とても忙しいですが、学生時代は野球をしていたので体を動かす仕事は自分に向いています。

（米内）昨年、町役場に就職して保健福祉課に配属されましたが、今年の4月から半年間、B&G財団さんへ出向するようと言われました。仕事そのものより東京での生活に不安を感じましたね。この研修も、職員派遣の一環として参加しました。

■みなさん、研修ではどんな点に苦労されましたか？

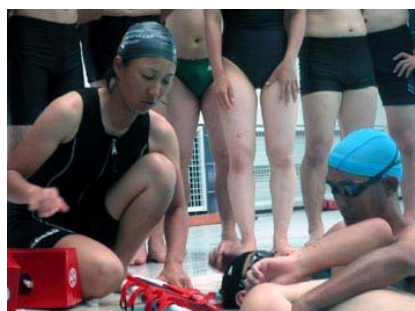
（有瀬）知らない土地で知らない人と過ごすのは学校を出て以来のことでしたから、ストレスを感じました。でも、それは参加者全員に言えることですから、実際には同じ仲間がいるから研修について行けたという感じです。また、海が相手なので体力的な辛さがありましたが、カヌーやヨットに乗りながら自分の力を知ることができ、とても良い経験になりました。

（佐藤）高校時代は下宿で、大学は寮に入っていたので団体生活には慣れていますが、いまは子供がいる身なので家族から離れて暮らすことに多少の不安はありました。

（平山）34歳なので研修生のなかではかなり年上なのかと思ったら、もっと年長の方もいて安心しました（笑）。でも、どうせならもっと若いうちに研修したかったですね。ヨットやカヌーは辛くありませんでしたが、水泳が苦手なので苦労しました。自主トレで、どうにか頑張っています。



カヌーはアトランタオリンピック出場の持田先生に指導を受けました。



ライフセービングの実習中

(米内) 町の海洋センターには艇庫がなく、カヌーやヨットはほとんど初体験でしたから、今回の研修でもヨットの器材の用語からして覚えるのに苦労しました。乗ることに関しても、座学ではピンと来なくて、実際に乗って失敗してみても、やっと理解できるといった感じでした。

■研修を受けた感想、また、特に参考となった講義がありましたら教えてください。

(有瀬) 研修は仲間に励まされながら、どうにか進めることができましたが、マリンスポーツの指導者になれたら、それはとてもやりがいのある仕事だと思います。マリンスポーツは人間を成長させてくれる格好の道具だと思います。来春の人事異動で海洋センターに配属されたら、うれしいですね。また、高齢者向けの「転倒・寝たきり予防プログラム指導者実践セミナー」は、とても参考になりました。私の町では高齢化が進んでいるので、ぜひ実践してみたいです。インストラクターの教え方がとても上手な点にも感心しました。

(佐藤) 他の研修生のみなさんと、いろいろな話ができることが収穫の1つです。各地の海洋センターが、いまなにをしており、今後どんなことを目指していくのかなど、さまざまな情報交換ができました。実際の研修では、どうしたら子供を飽きさせずに楽しくシンプルに指導できるかといったことが、ある程度ですが理解できるようになりました。今後も、カヌーやヨットの普及に力を入れていきたいですね。また、いま中条町では「転倒・寝たきり予防プログラム」を率先して行おうとしているので、今回の指導者実践セミナーは、たいへん役に立ちました。保健師とのタイアップの必要性など、具体的な課題も見えてきました。

(平山) かつて福祉課にいたこともあり、高齢者向けの「転倒・寝たきり予防プログラム指導者実践セミナー」には強い関心がありました。実際に、その内容を勉強してみて、これからやってみたいなと思いました。高齢者に対するプログラムの説明方法やストレッチのやりかたなど、実に実践的で分かりやすく、ソフトな印象を持ちました。また、「水に賢い子供を育むプログラム」にも強い関心を抱きました。ぜひ小学校に出向いて行ってみたいなと思います。

(米内) この研修は、とにかく参加することに意義があると思います。これまで、したことのないものを学ぶ部分がとても多く、それだけでも大きな勉強になるからです。名川町には艇庫がないので、すぐにヨットやカヌーを子供たち

に教えるということはありませんが、今回の研修を基に自分たちの町に合ったやり方を考えていきたいですね。また、研修期間中、いろいろな人と話ができただことも有意義でした。現在の施設をどうやって活用していったら良いのか、おたがいに意見を交換し合いましたが、それぞれに環境が異なる町や村から来ている訳ですから、いろいろと参考になりました。加えて、「転倒・寝たきり予防プログラム」は、かなり作り込まれていて普及しやすい内容になっているので、とても感心しました。



第5回 アドバンスト・インストラクター26名の皆さん

教官と研修生の間に線を引くことがむずかしい

B & G財団東條 剛之、福田輝子・両教官が、ともに今回からアドバンスト・インストラクター養成研修の担当となりました。その重責を果たした感想をお聞きしました。



東條 剛之 教官



福田輝子 教官

■今回、初めて教官を務めてみて、アクア・インストラクター養成研修と大きく異なった点がありましたか？

(東條) アクア・インストラクターの場合、研修内容が水泳だけに絞られますので、参加する研修生も「水泳の指導を習いに来た」という1点に目的意識が集中しています。しかし、アドバンスト・インストラクターの場合は、水泳は

もちろん、ヨットやカヌーも習わなければなりませんから、研修生も教官も意識のメリハリが求められます。いろいろなメニューを消化していかねばなりませんから、研修生のなかには戸惑う場面もあったかと思います。

（福田）自ら率先して動こうとする研修生が少ない気がしました。指示を待ってから動くということが多かったですね。ヨットや、カヌーなど、したことのないメニューが多くて、戸惑う面が多かったからかもしれません。

■今回の研修では、どんな点に注意しましたか。

（福田）厳しく教えるときと、やさしく教えるときのメリハリに気を使いました。どちらか一方だけでは前に進めませんからね。

（東條）正直な話、どの部分でハードにすべきか、どの部分でソフトにすべきか、という全体的な流れを掴むことがむずかしい。その点、目的が1点に絞られているアクア・インストラクター研修の方が、教官としてはやりやすいですね。また、安全管理といった面においても、アドバンスト・インストラクター研修の方が、はるかに気を使います。ヨットに乗っているときなど、細いシート（セールを操るロープ）1本外れただけで横転してしまうこともありますから。

■研修生と接する面での苦労はありますか？

（東條）本当は、研修生の誰ともフランクに話をしたいのですが、教官と研修生という立場にいる以上、その線引きが非常にむずかしいですね。特定の研修生とばかり親しくなってしまうといけないし、かといって1カ月も一緒に行動する訳ですから、予備校の先生のように教えることばかりに集中していてもいけません。

（福田）休みの日でも、研修生と一緒に飲みに行くなどということはしませんが、1カ月もすれば研修生それぞれの人となりが分かってきます。今回の研修生は、みなさん非常にしっかりしており、二日酔いのまま休み明けの研修に出てくるといったような型破りな方がいなくて助かりました（笑）。

■いろいろな模索はあったようですが、お二人とも無事にアドバンスト・インストラクター教官のデビューを飾れたようでした。今後のご活躍を期待しています。